

# 今年度最後の「けんせつ小町活躍現場見学会」を開催

日本建設業連合会は、十月二十四日、北九州市東八幡区にある(株)奥村組九州支店の社屋・寮新築工事現場にて「けんせつ小町活躍現場見学会」を開催した。

十月号の特集で既報の通り、本見学会は、夏休み特別企画として首都圏・大阪・福岡において合計一三方所開催し、今回が最終回である。当日は、台風の影響が心配されたが好天に恵まれ、大分県や山口県など福岡県外からも多数の参加があった。

総勢二九名の参加者は、阿部由美所長をはじめとする「八幡ひまわりチーム」の皆さんから工事概要などの説明を受けた後に早速現場へ向かう。免震装置の体験コーナーでは、免震装置の稼働前と後の揺れの違いを体験し、子供たちは、東日本大震災などと同じ規模の揺れがとてもし小さくなることに驚いた様子であった。また、鉄筋組みの体験コーナーも設けられて



見学者と八幡ひまわりチームの集合写真。(提供：(株)奥村組)

おり、職人さんに手本を見せていただいた後、実際にやってみてみた。「簡単そうに見えたけどけっこう難しいな」と、真剣な表情で何度も挑戦する子供たち。うまく出来た時には笑顔がはじけ、見学会終了後の質疑応答で「将来は鉄筋を組む仕事になりたい」という感想が出るほどに残ったようだ。

参加した子供たちは、タイルの体験コーナーで自分がデザインして木枠に貼ったモザイクタイルを見るたびに、楽しかった今回の経験を思い出すことだろう。当会では、今後も、日本の未来を担う子供たちに向けて、ものづくりのやりがいやおもしろさなどを知ってもらおうべく、さまざまな取組みを進めていきたいと考えている。またの機会にご参加を心よりお待ちしております。いただいた現場の方々に、改めて御礼申し上げます。次第である。



上/免震の体験装置  
中/鉄筋組み体験  
下/タイル貼り体験

## 日建連建築セミナー開催報告

# 居心地の良い公共建築 「住まいのような学校」

日本建設業連合会は、去る十月十五日に「日建連建築セミナー」を東京証券会館のホールで開催した。講師には建築家の工藤和美氏をお招きし、「居心地の良い公共建築」というテーマでご講演いただいた。



工藤和美氏。講演では20年間に手がけた教育施設を中心に、その設計プロセスと竣工後の使い方について紹介した。

## 住まいのような学校

工藤氏は「金沢海みらい図書館」(第五回B CS賞受賞、二〇一一年竣工)をはじめ、数多

くの教育施設を手がけている。セミナーでは「千葉市立打瀬小学校」(一九九五年竣工)から「千葉商科大学 The University DINING」(二〇一五年竣工)までの二〇年間に手がけた建物を中心に紹介。前半は生徒や教師といった利用者の目線に立った空間とその使われ方について、後半は均質な構造で多様な空間を生み出す設計について話をした。「学校は子どもたちが一日の大半を過ごす場所であり、住まいのような快適な環境を提供したい」という今では多くの人が共感する考え方も、工藤氏が打瀬小学校の設計をはじめた九〇年代はなかなか理解されなかったという。学校建築という形式化したビルディングタイプを解体し、再構築してきた二〇年間であったと述べた。

## 教育は建築

工藤氏が強く影響を受けた教育方針のひとつとしてイタリアのレッジョ・エミリア市の取組を紹介した。そこでは「生徒を子ども扱いせず、一人の市民として豊かな学習空間を内包した学校建築を提供し、表現力やコミュニケーション能力、思考力などを養うことで、世界から高く評価されている」という。教育にはプログラムでなく建築が重要であることを強く感じたと述べた。設計の際には、こうした考えを理解してもらうために、誰にでも分かる平易な言葉を使って説明することを心がけているという。工藤氏は、授業のあり方や学校生活の本質を見直すことで、従来とは異なる公共建築を提案してきた。今後は、図書館でコンサートを開催するような、目的外の利用を積極的に促していくことで、公共建築の新しい可能性が広がるのではないかと述べセミナーを締めくくった。



講演の様子。スクリーンの映像は「千葉市立打瀬小学校」(1995年)。